

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
なかま編集係

〒285-0025
佐倉市鍋木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ 上海の大衆食堂で ----- 岡本文隆 プロ野球開幕に向けて ----- 石原茂樹
3 ページ 軍艦島 ----- 林 久子 牛の如く読む ----- 村田長保

料理同好会「悠遊くらぶ」

池田圭三

「もし私が先に逝ったらどうするの。一人で何もできないじゃないの」。私に家事の手伝いを頼む時の家内の得意の科白である。私と家内との四歳という年齢差と男女の平均寿命の差より考えて、確率的に私が十年は先に逝く計算になると思いつつ、その時は大体黙って手伝っている。

ただ、そのやりとりが潜在意識の中に残っていたのか、俳句仲間の W さんより男性の料理同好会「悠遊くらぶ」の話聞いた時即座に入会を申し込んだ。二台しかない調理台の関係、参加者が全員手動かし料理作りができるようにとの配慮から定員を厳格に守っていたようだが、たまたま退会者が続出した後だったので、幸運にも入会を認められた。

生がいているわけではなく自主的に運営されている。会長が月一回の開催日の一週間前に出席者数を確認しレシピ係に連絡する。レシピ係はレシピを決め購入する食材の量を決める。食材購入係二名は輪番制で決まっており、開催日の十時までに食材を買いそろえて会場に持ちこむ。レシピは二通り用意されており、簡単な説明と注意事項を聞いて、出席者を A B 二班に分け、夫々が料理を作り始める。大体十時には料理ができ上がり、皆で和気藹藹会話を楽しみながら食事をする。

食後の後かたづけも簡単に済むように、全員が自分の茶碗、お碗、箸を持参することになっている。ゴミ係も輪番制で二名ずつ決まっており、発生したゴミは当番が持ち帰ることになっている。

最近のレシピの中で、私が復習の意味をかねて家で作って評判の良かったのは、和風ハンバーグ、パスタのカルボナーラ、かき揚げである。カルボナーラは孫が来た時に昼食に作ると「おじいちゃんを作ったパスタ美味しかった」と大好評。かき揚げは私自身の好物でもあり三回も挑戦し一回ごとに腕を上げ、プロのようにパリッと仕上がるようになった。その要領はまず油の温度でやや低めの一六〇度でじっくり揚げることで、こるものつけ方によると会得した。

いかに辛口のコメントをされようと、一緒に食べる相手がいると料理作りの意欲も湧く。しかし本当に一人になった時、果して自分で作って食べるだろうか。疑問に思っている。やはり外食が多くなり、或いは、中食という形の出来合いの物を買って帰って食べるが多くなるのではないかと思っている。

(編集委員)

上海の大衆食堂で

中国の大衆食堂で水やお茶を注文したらどうなるか？

上海で食事中に「水を下さい」とウエイトレスに言った。彼女はげんなり顔をして何も言わない。私の中国語の発音が悪かったのかと思い、もう一度「水を」と言いかけて気づいた。中国では生水は飲めない。「飲める水」と言わなければ通じない。

食後に「お茶を下さい」と言ったら、全くわからない単語を次々と並べられた。中国はお茶の国で、百種類以上のお茶がある。彼女は店にあるお茶の種類を並べていたのだ。お茶を注文する時は、テツカンノン茶とかジャスミン茶と種類を指定しなければならぬ。

中国料理は大皿のものを、皆でとって食べる。大衆食堂では取り箸はない。昔は主人が、客の皿に自分の箸で取っ

てあげるのが作法であったと聞く。辞書を引くと取り箸を示す単語がある。通じるかどうか、各地で試してみた。北京、上海、杭州では通じたが他は駄目だった。

復旦大学の教授と大衆食堂へ行った。彼女はメニューを見て、原材料と辛いかどうかを、ひとつひとつたずねていった。確認しておかないと、メニューにある「虎」が猫の肉、「竜」が蛇の肉というお国柄なので怖いという。また、とても食べられない位、辛いこともよくあるという。

海外旅行では大衆食堂へ行くと、その国の庶民の姿が良く見える。

上海万博を見学される方は、以上をご参考に大衆食堂で庶民との交流を楽しんで下さい。

(梁井野 岡本文隆)



プロ野球開幕に向けて

三月十七日東京でのオープン戦のチケットが入手できたので観戦に出かけた。

時期としても開幕戦の仕上げり状況を占うにはいい時期である。

予想通り開幕戦を意識したレギュラーメンバーでの対決。試合はレギュラー陣の活躍で六対一の勝利。私の満足度は限りなく一〇〇%に近いものだったが、なぜか少し物足りなさを感じた。

それは何かを考えてみた。ご臍^{ひいき}盾チームはもちろん巨人である。当たり前かもしれないが強い巨人が良い。

ただひと頃のように高額で有望選手を引き抜き、個人プレーに偏った頃の巨人は好きではない。

足の速い一、二番と三、四、五番の重量打線。さらに何か期待を持たせる下位打線。繋がりや役割の明確さが売り物の9時代の巨人が好きである。

9時代を担った選手はどれも個性豊かで職人気質に徹したプロ集団と言いたい。その中で長嶋、王は代表格であろう。

また、投手では荒れ球の堀内、八時半の男の異名をとる宮田が印象的であり、特に好きだった。

巨人以外にもバの代表的投手の鉄腕稲尾や杉浦、打者では中西、豊田、セではダイナミック投法の村山、守備の吉田等々。

こうした個性豊かで長くチームに貢献する選手が今は少ない。

今年も優勝は巨人が最短距離にいると思うが、熱烈な巨人ファンの人として個性豊かで実力があり、長くチームに貢献する看板スターを求めたいことは贅沢なのだろうか。

(井野 石原茂樹)



軍艦島

長崎港から高速船で南へ二時間ほど走ると、端島はしまがあります。周囲一・二キロの小さい島ですが、この島がかつて、日本の石炭産業を担って大活躍した島なのです

その島の姿は遠くから見ると、八幡造船所で造られた軍艦「武蔵」に似ているところから、軍艦島と呼ばれました。明治二十八年から、海底千円の地下深く良質の石炭を採掘したのです。過酷な地下の労働とは反対に、地上の生活は裕福なもので、日本最初の七階建共同住宅に約五千人が生活していたのです。家賃・光熱水費は無料、各戸に一台のテレビ、小中学校にはプール、そして立派な病院が設けられ、映画は東京より早く封切りされたそうです。石炭から石油へのエネルギーの転換が進み、一九七四年には閉山されて、住人は各地

に散らばって無人島になりました。その後、今日までの経過により、形だけは残っていますが、アパートはくずれかけ、子供たちが学んだ校舎、遊んだプールも廃墟そのものでした。

島内の見学は、波が荒く接岸が容易でないことや足元が整備されていないことで、これまで許されなかったのですが、元住民や長崎市が世界遺産に登録できるように運動して、通路も整備され、厳しい条件下で見学が可能になりました。

幸い、私は上陸して見学できたのですが、壮観であったらう昔を偲び、百年近い時代の流れを感じました。

余計な事ですが、ドイツのテレビ局からインタビュースレ、一言二言喋りました。もし、ドイツで放映されるのなら、もう少し雄弁になればよかったですと思っています。

(稲荷台 林 久子)

牛の如く読む

犁耕体れいこうたいという文字の綴り方がある。横書きの時牛に犁すきをつけて田を耕やす様に、一行ごとに向きを変え左書きにしたり右書きにしたりという書式である。人間の目の動きを考慮した場合、一行読み終わる毎に左端に戻ってというのは不合理かもしれない。二行目は逆に右から左へ綴っていくれば目の動きにムダが生じない。三行目は当然のことながら一行目と同じ左書きだ。

欧米の古い言語には実際使われていたらしく、ブストロフェドン(boustrophedon)という言葉もある。語源はギリシア語で「牛の折り返し」という意味だから、「犁耕体」は全くの直訳といっている。合理的とはいえず、どの程度役に立つのか全く未知だ。一・二行の読書では差は出ないと思うが五百行、千行の本となれば視線の動き(動線距

離)に大きな差異が生じ、日本人の読書に大きな革命、朗報を齎もたらすかもしれない。眼の疲れが半減とか読む速度が倍加とかの実験結果が得られたら、日本文化全体にもとてつもないメリットを生むのではないか。これは是非一考の価値がある。

《犁耕体の一例》

若し犁耕体が実際に行われ
方ち打の点読句、らたしとる
、数字やアルファベット文字
じ生が題問な細些どな理処の
るだろうが、原理的に日本語
。だ能可施実もでらか日明は
人間の眼の動きにこれは式
。いまるあは

(新白井田 村田長保)



6月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

せくら道

佐倉には、山や溪谷がないせいか意外と写真スポットが少ない（感性不足のせいかも）。しかし、夕焼け空は、どこで眺めても美しく、カメラに収めたいと思う。

特に美しい夕焼けスポット二ヶ所を紹介します。

印旛沼の名喰戸橋下から眺める夕日は、葦の穂を金色に染め、風車のシルエットを浮かべながらユーカーが丘の高層ビルの中に沈

んでゆく。

城址公園で唯一眺められる、三の丸跡の小高い丘から見る夕焼けも、とりわけ美しく切ない。二月中旬には、富士山の上に沈む夕日が見られる。時々出会う人がいて「私、ここで見る夕日が好き」と言う。もしかしたらこの人は佐倉城のお姫様で、土井利勝が初代佐倉藩主になってから四百年、ここでこの夕日を眺め、身を焦がしてきたのかも知れない。

（猪瀬信彦）

あとがき

廃墟の軍艦島は、まるで昭和の化石。路地には子供たちがあふれ、町内はみな顔見知り。そんな、小さいころの風景がよみがえる。

長嶋や王は、力道山と並ぶ昭和のヒーロー。大人も子供も一緒になって、一つテレビの前で応援していた。

平成も早二十年を過ぎて、昭和が懐かしいイメージで語られるようになった。

犁耕体は、読むことに限っては一考の価値があるのでは。実際、行から行へ移るとき、煩わしさを覚えることがある。一行一行が長く、行間が詰まっている文だとなおさらだ。

食文化は、所変われば品変わる。この身が生来の食文化になじんできているだけに、よその国の料理との出会いは、時に衝撃的でさえある。大衆食堂では、旅の醍醐味を味わえるだろうが、タフな胃袋が必要。

（巴 安治）